2026年11月5日

各　　位

会 社 名　　飯 野 海 運 株 式 会 社
代表者　　代表取締役社長　大 谷　祐 介
コード番号　　9119 （東証プライム）
問合せ先　　経営企画部長　　米 山　航 史
（TEL　03－6273－3069）

# 2027年３月期第２四半期（中間期）連結累計期間の業績予想と実績の差異、通期連結業績予想の修正、剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

2026年８月４日公表の2027年３月期第２四半期（中間期）連結累計期間の業績予想と本日公表の実績との差異につきまして、下記のとおりお知らせ致します。

また、本日2026年11月５日開催の取締役会において、2027年３月期通期業績予想の修正、中間配当の実施及び期末配当予想の修正について決議しましたので、下記のとおりお知らせ致します。

記

１．業績予想と実績の差異

(1) 2027年３月期第２四半期(中間期)連結累計期間の業績予想と実績の差(2026年４月１日～2026年９月30日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する中間純利益 | １株当たり中間純利益 |
|---|---|---|---|---|---|
| 直近の業績予想（A）<br>(2026年８月４日発表) | 百万円<br>69,000 | 百万円<br>5,500 | 百万円<br>4,100 | 百万円<br>11,200 | 円 銭<br>105.86 |
| 実績値（B） | 74,970 | 6,676 | 5,927 | 12,110 | 114.46 |
| 増減額（B－A） | +5,970 | +1,176 | +1,827 | +910 | |
| 増減率（%） | +8.7% | +21.4% | +44.6% | +8.1% | |
| (ご参考)前年同期実績<br>(2026年３月期中間期) | 61,117 | 5,770 | 6,584 | 7,475 | 70.65 |

(2) 差異の理由

直近の業績予想発表時（2026年８月４日）と比べて、主にケミカルタンカーやドライバルク船の堅調な市況と効率的な配船により当初の想定を上回る収益を確保したことで、営業利益は増益となりました。また、当第２四半期連結会計期間に為替が想定より円安（対US$）に振れたこともあり、経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益は直近の業績予想を上回りました。

２．業績予想の修正

(1) 2027年３月期通期連結業績予想の修正（2026年４月１日～2027年３月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | １株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|
| 直近の業績予想（A）<br>（2026 年８月４日発表） | 百万円<br>136,000 | 百万円<br>12,000 | 百万円<br>9,600 | 百万円<br>14,000 | 円 銭<br>132.32 |
| 今回予想（B） | 149,000 | 14,000 | 11,700 | 15,800 | 149.33 |
| 増減額（Ｂ－Ａ） | +13,000 | +2,000 | +2,100 | +1,800 | |
| 増減率（%） | +9.6% | +16.7% | +21.9% | +12.9% | |
| (ご参考)前期実績<br>（2026 年３月期） | 127,295 | 13,439 | 16,885 | 15,391 | 145.47 |

(2) 修正の理由

上述のとおり、当中間連結会計期間の業績は直近の業績予想を上回りました。また、直近の業績予想時と比べて、第３四半期連結会計期間以降は引き続きケミカルタンカーとドライバルク船の市況が堅調に推移すると見込むことから、通期連結業績予想の修正を行いました。また、本業績予想は、2026年度中はホルムズ海峡の事実上の封鎖が継続することを前提として策定しています。今後の国際情勢の変化等により連結業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示します。

※第３四半期連結会計期間以降の為替レート及び船舶燃料油価格の前提は以下のとおりです。

<直近の業績予想発表時の前提>

為替レート　　155円/US$

船舶燃料油価格 US$580/MT　[油種：適合燃料油(Very Low Sulfur Fuel Oil) 補油地：シンガポール]

<今回発表予想前提>

為替レート　　155円/US$

船舶燃料油価格 US$940/MT　[油種：適合燃料油(Very Low Sulfur Fuel Oil) 補油地：シンガポール]

３．剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正

(1) 剰余金の配当（中間配当）

| | 決定額 | 直近の配当予想<br>（2026 年８月４日公表） | 前期実績<br>（2026 年３月期） |
|---|---|---|---|
| 基準日 | 2026 年９月 30 日 | 2026 年９月 30 日 | 2025 年９月 30 日 |
| １株当たり配当金 | 30.00　円 | 27.00　円 | 24.00　円 |
| 配当金の総額 | 3,174 百万円 | ― | 2,539 百万円 |
| 効力発生日 | 2026 年 12 月３日 | ― | 2025 年 12 月１日 |
| 配当原資 | 利益剰余金 | ― | 利益剰余金 |

(2) 期末配当予想の修正

| | 1株当たり配当金 | | |
|---|---|---|---|
| | 第２四半期末 | 期　　末 | 年　　間 |
| 直近の配当予想（2026 年８月４日） | 27.00　円 | 26.00　円 | 53.00　円 |
| 今　回　修　正　予　想 | | 30.00　円 | 60.00　円 |
| 当　　期　　実　　績 | 30.00　円 | | |
| 前期（2026 年３月期）実績 | 24.00　円 | 35.00　円 | 59.00　円 |

(3) 修正の理由

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けております。現中期経営計画に基づき、成長投資により創出される利益を原資に、将来の投資余力及び財務健全性を勘案しつつ、安定性・予見性・機動性を備えた株主還元の実現を基本方針としております。具体的には、通期業績に対する配当性向40%を基準とした配当の継続を基本としつつ、市況変動の大きい海運業において、配当の安定性と予見性を高めるため、１株当たり30円の下限配当を導入しています。

当期の通期業績は直近の業績及び配当予想の発表時（2026年８月４日）から改善する見込みです。業績の改善見込みと前述の基本方針に基づき、当第２四半期末の１株当たりの配当金につきましては、直近の配当予想から３円増額の30円とすることを、2026年11月５日開催の取締役会で決定しました。期末の１株当たりの配当金につきましては、直近の配当予想から４円増額の30円、通期で60円の配当を予定しております。

当社としては引き続き業績の向上に向けて努力すると共に、今後の利益水準及び財政状態並びに株主還元策を総合的に勘案して、期末の１株当たりの配当金について決定する予定です。

(注)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上